

## 新役員紹介

2020年度当NPO法人通常総会の、役員選出において新役員が以下の通り選任されました。併せて今年度1年間お世話になります運営委員の皆さまをご紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。

### 理事長

金崎 いよ子

### 副理事長

沢井 進一 田中 仁一郎

### 専務理事 (事務局長兼務)

中 明子

### 理事 (あいうえお順)

柏尾 珠紀 加村 賀勇 河野 芳明 笹江 晃弘 鹿田 良男 鈴木 嘉恵

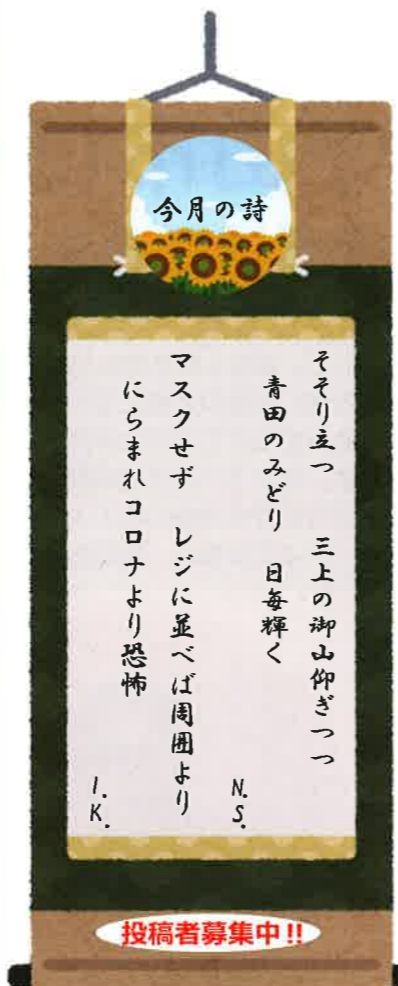
竹内 辰郎 寺田 守 中島 正一 古川 道夫 八尋 由佳

### 監事

佐藤 育子 芝本 伊三男

### 顧問

北田 俊夫 長尾 是史



投稿者募集中!!

### 軽トラ隊 募集

イベント等で用具の運搬など軽トラでお手伝いいただける方を募集しています。

(ガソリン代程度のお支払いをいたします)

### データ整理ボランティア 募集

水質調査などのデータ整理をお願いいたします。

(Excelの使える方を募集しています)

イベント・ボランティアの参加希望は豊穣の郷事務所にお電話ください。

お申込みお待ちしております!

豊穣の郷事務所  
077-583-8686

## 沢井副理事長の叙勲受章

びわこ豊穣の郷副理事長の沢井進一さんが春の叙勲において瑞宝小綬章を受賞されました。栄えあるご受章を、心からお祝い申し上げますとともに、ますますのご活躍をお祈りいたします。



### これからの活動予定

◎ 水辺の楽校 夏編	開	8月22日(土) 9:00~12:00	場	目田川河川公園
◎ 学区民のつどい	開	中止	場	
◎ みんなの河川クリーン作戦	開	9月26日(土)	場	吉身川(立入町町内)
◎ ほたる講座(ほたるの森資料館)	開	9月~3月 第1土曜日/全8回	場	ほたるの森資料館
◎ 環境学習会(ほたるの森資料館)	開	日程調整中	場	ほたるの森資料館
◎ 川づくりフォーラム	開	2021年2月7日(日)	集	オンライン
◎ 赤野井湾・小津袋クリーン大作戦	開	2021年3月7日(日)	集	玉津小津漁業協同組合事務所前

開 開催日時 集 集合場所 場 活動場所



### しじみのひとりごと

新型コロナウイルスの影響で、世の中が大変住みにくく、生活しにくくなっている。このため守山の大きなイベント、ルシオール・アートキッズフェスティバルや、守山ほたるパーク&ウォークも中止となる。ようやく、六月や七月には明かりが見えてきました。以前より作成していましたが「水辺百選」のリーフレットの内容を見直し、完成できた。会員の皆様方も手に取って頂き、ぜひ身近なすばらしい川を今一度見つめ直して下さる様、お願いします。今夜もホタルが飛んでいます。そっと静かに見守ってやって下さい。

来年もまた多くの人々に見てもらえることを祈りながら筆をおきます。がんばろう!!

びわこ豊穣の郷、会員の皆さまへ

I.K.

# 豊穣の郷 だより

2020年8月15日発行 発行部数 1,700部

Vol.90

人と水環境のネットワーク

発行 認定NPO法人びわこ豊穣の郷 E-mail houjyouunosato@lake-biwa.net  
理事長 金崎いよ子 URL http://www.lake-biwa.net/akanoi/  
住所 守山市勝部五丁目10-25  
TEL 077-583-8686 (有線 583-8686)  
FAX 077-558-5007

- 1面 通常総会、近畿ろうきんNPOアワード採択
- 2面 水辺探訪講座、赤野井湾探検会、コロナ時代のボランティア
- 3面 退任新任のご挨拶、ホテル飛行状況、もびか通信
- 4面 これからの行事予定、今月の詩、しじみのひとりごと



認定NPO法人びわこ豊穣の郷、第17回(2020年度)通常総会を6月13日(土)にエルセンターで行いました。今年度はコロナウィルス感染予防を優先し、会員のみなさんにはできるだけ委任状や書面決議での承認を呼びかけました。基調講演や来賓のご招待も割愛し、例年より時間短縮に努め、総会の座席の間隔も広く取るなど「三密」にならないように心掛けました。当日提案案件の「2020年度事業計画案」など3議案は、すべて可決承認されました。役員選出において新理事3名を含む15名、監事2名が選出され

ました。その後の臨時理事運営委員会で、互選により理事長に金崎いよ子、副理事長に沢井進一、田中仁一郎、専務理事(事務局長)に中明子が指名決定されました。(その他の役員は本誌4面で紹介しています)参加者24名の少人数の総会ではありましたが、「対外的な活動にも力を入れ、その成果もキチンと発信したほうが良い」などの提案もあり、身の引き締まる思いで総会を終えました。本年度も地に足を付け、地域や関係各所から愛され信頼される団体となるよう頑張りましょう!



祝

『環境学習の機会を通し子どもが年代に関係なく多くの「仲間」と活躍できる場づくり』

2019年度 近畿ろうきんNPOアワード優秀賞受賞!

近畿ろうきん  
NPOアワード



当法人では近畿ろうきんNPOアワードに応募し「子どもの成長を応援する事業」、「子育て環境を整える事業」を実施する団体として、優秀賞を受賞しました。去る7月9日(木)に近畿ろうきんよりご訪問くださり、事務所でも贈呈式が執り行われました。頂いた助成金は夏休み自由研究教室や子どもほたるガイド教室、学習の場となる目田川の小さな自然再生などに使わせていただきます。



# 赤野井湾巡り

～水辺百選講座～

コロナウィルス感染に気を付けて少人数での講座開催。今回の応募に応えられなかった方々にはお詫びします。9時過ぎに市役所前を出発して、前日整備作業を終えたばかりの目田川に立ち寄りこの地点の説明を受け、屋形船の待つ船着き場へ。この時期には珍しく晴天に恵まれ波もなし。田中漁業組合長や秋山教授の説明もゆっくりと聞く事ができました。烏丸半島付近のハスは壊滅したままですが、今ヒシが増えてきています。絶滅したハスも生き残りを極わずから見つけたとの報告もあるとか。湖北から産卵に来るモロコ

な産卵場となるアカメヤナギの保護もしていると田中さん。2時間弱のクルーズの後、昼食を取ったホテル最上階レストランから琵琶湖を俯瞰して「今回オオバナミズキンバイを見なかった」事に気づきました。これも漁師をはじめ、早期発見早期除去に取り組む地域や団体の成果だと思えます。因みにこの活動には当NPO法人も参加しています。食後、大川親水ウッドデッキでこの施設の解説を守山市職員から聞き、咲き始めたひまわり畑を觀賞し、市民の森を経由して3時過ぎ帰着しました。



# 赤野井湾探検会を行いました！

今にも降りそうな梅雨空の中 赤野井湾探検会を行いました。コロナ対策の為、大人10名子ども11名と少人数で行い、琵琶湖の恵みを頂く昼食も取り止めました。湖では家族単位で船に乗り赤野井湾へ出て二ゴロブナの放流やもんどり漁・竹筒を使ったウナギ漁などの漁師体験に挑戦しました。陸ではブラックバスの解剖を水産試験場の田口さんの指導によりハサミでお腹を切り開き内蔵を調べました。特に胃袋の中を開いてみるとブラックバスの稚魚

やエビ等が出てきてみんなドキドキでした。漁師体験の収穫はウナギ、アカミミカメ、ライギョ、エビ類、ジャンボタニシ、ニゴイ等で鯉や鮒は揚がりませんでした。本日参加した子どもは「テナガエビが取れて嬉しかった。解剖がおもしろかった。」とアンケートに書いてくれました。体験したことを忘れず琵琶湖を守る活動にも挑戦してほしいと思いました。



## コラム

# 新型コロナ時代の環境ボランティア活動

1月の国内感染発症から始まって新型コロナは日本および世界をすっかり変えてしまった。環境ボランティア活動も例外ではなく、フィールドである守山市のガイドラインの下では従来通りの活動はできなくなった。そうした中で今後当NPO(豊穰)はどうするか。まず我々の活動は目田川モデル河川活動など屋外主体であるから、3密のうち、「密閉」からは免れ得る。活動受け入れ時のマスク着用・検温には留意しつつ、「密集・密接」は回避可能。この

ため、他の野外活動同様、今後も活動継続はできよう。テレワーク・オンライン授業などで、自宅籠りが長くなる人に対して、屋外活動は魅力になる。屋内活動の例としては、「川づくりフォーラム」がある。制約がきついため、ZOOM会議などオンライン形式を取り入れることになろうが、参加者に慣れてもらうのが大変。他方、外部イベントの「学区民のつどい」などは、屋外であるがこの先参加の見通しが立たず、苦しい。日本経済全体がコロナ収縮を

余儀なくされる中で、当面は、各個人・企業・団体が「生き残り」競争に直面し環境NPOも例外ではない。一方では、テレワークの普及で通勤時間が不要となる人が出てくる。また、これまでの人手不足が人手余剰になるから、NPOとしても人材を取り込むチャンスである。屋外活動のボランティアに「水辺百選」などへの継続参加を呼び掛けていきたい。

# 守山市ほたるの森資料館 館長退任のあいさつ

中島 正一

5月31日をもって退任させて頂きました。2016年4月から4年間、自然と緑に恵まれたほたるの森資料館で務めさせていただけた事感謝申し上げます。ほたるの森に資料館にと市内内外、県外各地からも多くの方々がお見えになり人との出会い、触れ合うことがで

きました。又、資料館職員の皆様には、大変お世話になりありがとうございました。今年は開設30周年を迎えました。ほたる河川でのホタルの自然発生(自生)の実現に向けて、ほたるの森資料館の益々のご発展をお祈り申し上げ退任のご挨拶といたします。



中島さん

# 新館長就任のあいさつ

眞田 善之



眞田さん

玉津学区のホタルプロジェクト活動の一環で何度かほたるの森資料館にお世話になったご縁で館長に就任することになりました。伝統ある「守山ボタル」の発展と、資料館30年の歩みをさらに進化させるには少し力不足ですが、ご支援をいただく多くの方々のお力をお借りして、「ほたるの住むまちもりや

ま」を発展させていきたいと思えます。その方策の一つとして、学校教育や自治会活動との連携を深めていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

# 2020年度 ホタル飛翔状況

2020年度はコロナ感染症予防対策のため『第17回(2020)守山ほたるパーク&ウォーク』は中止となりましたが、市内河川の飛翔調査は会員や市民など約40名の皆さまが、5月9日から6月10日の1か月間参加してくださいました。皆様からの調査結果より、守山市ほたるの森資料館として守山市内及びほたるの森資料館ほたる河川の飛翔状況のまとめをご報告いたします。

- 1 飛翔時期については、地域差に若干の違いはありますが、地球温暖化の影響で約1週間弱の早まりが見受けられます。
- 2 飛翔数については、減少傾向にありますが、宅地開発や市街化開発による影響が顕著で、全体としては市民の皆さんの努力が実を結び減少化を食い止めていると考えられます。

皆さまのご協力に感謝いたします。



# もぴか通信



守山市ほたるの森資料館では今年も孵化幼虫が誕生しました。これから約9か月かけてのゲンジボタル幼虫飼育が始まります。現在幼虫の数を数えています。親の数からの推定で4万頭くらいいそうです。幼虫を飼育すると、時間が経過するにつれ幼虫の大きさに差が出てきます。なぜそうなるのかは謎ですが、今回、古川が

所有するカールツァイス社製デジカメ付き実体顕微鏡で観察したところ、すでに孵化幼虫の時点で幼虫の体長に倍ぐらいいの差があることがわかりました。孵化した時点で明確に個体差があったのです。いままで適当に幼虫を観察していたことを反省するとともに、今後より詳しく卵と孵化幼虫の関係を研究したいと思えます。

